

疫学研究とは、病気にかかることの頻度や病気の多さを調べて、その原因を明らかにする研究です。私たちは過去のカルテより得られた情報を利用して、現在まで行われた病気の診断・治療の評価を行い、より良い診断・治療法を確立し患者さんに還元できるように、下記の疫学研究を行っています。

下記の疫学研究は、兵庫県立尼崎総合医療センター倫理委員会の承認を得た後、研究責任者の管轄のもとに行われます。当院にすでに記録されている臨床情報をもとに行われるため、対象となる患者さんに新たにご負担をおかけすることはありません。

また、この研究の結果は専門の学会や学術雑誌に発表されることがありますが、対象者のプライバシーは十分に尊重され、個人に関する情報(氏名など)が外部に公表されることは一切ありません。

もし、下記の疫学研究にご自身の臨床情報を使用されることに同意されない方は、下記連絡先にご連絡くだされば、解析対象から除外させていただきます。同意されない場合でも、診療上であなたが不利益を被ることは一切ありません。また下記研究に関して、ご不明な点がございましたら、いつでも下記連絡先にお問い合わせください。

<概要>

研究課題名	造影CTにおける腸管内への造影剤漏出所見は状態が安定している下部消化管出血患者の治療方針に影響を与えるか
対 象	2021 年 1 月～2024 年 9 月に下部消化管出血で当院に搬送され、造影CTが実施された 18 歳以上の患者さん
研 究 期 間	承認日から2027 年 3 月 31 日までを予定しています。
研 究 目 的	状態の安定した下部消化管出血患者に対する造影CTの有効性はわかっていません。本研究では、状態の安定した下部消化管出血患者に造影CTを施行し、腸管内造影剤漏出の有無を確認することが、その後の治療方針や予後に影響を与えているかについて検討します。
利用又は提供を開始する予定日	承認日以降に試料・情報の利用・提供を開始します。
方 法	診療記録より臨床情報を収集します。収集する臨床情報には、年齢、性別、バイタルサイン、オークランド分類(下部消化管出血のリスクスコア)、来院時間、造影CT施行時間、造影CT所見、治療(内視鏡、カテーテル治療、手術)、入院日数、ICU入院歴、輸血有無、内視鏡施行回数、治療までの時間、再出血の有無、転帰、抗凝固・抗血小板の有無、診断病名があります。研究結果は学会および論文にて公表します。
個 人 情 報	臨床情報は匿名化され、個人が特定できないようにして、必要な臨床データのみを収集して解析を行います。そのため、本研究に協力していただく患者さんに不利益が生じることはないと考えています。しかし、そうであっても臨床情報を本研究のために使用されたくない方は、ご連絡いただければ解析対象から除外します。
問い合わせ先	兵庫県立尼崎総合医療センター ER 総合診療科 〒660-8550 兵庫県尼崎市東難波町 2-17-77 TEL: 06-6480-7000 FAX: 06-6480-7001 研究責任者: ER 総合診療科 畑 菜摘